羅臼町教育情報誌 もやい

人と人・学びと学びを　つなぎ　結ぶ

第３８号
発行　平成３０年８月１０日
羅臼町教育委員会
羅臼町栄町　８７－２１２９

羅臼町の幼稚園、小学校、中学校、高校の全てが平成２４年４月からユネスコスクールに加盟し活動をしております。

ユネスコスクールとは？

ユネスコスクールは、１９５３年、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整を図る共同体として発足しました。世界１８２カ国で１０，０００校が加盟して活動しています。日本国内では、２０１８年２月現在１，０３３校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学が加盟しています。ユネスコスクールは、そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発・発展を目指しています。

【ユネスコの理念】
①戦争は人の心の中で生まれるものであるから，人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。②文化の広い普及と、正義・自由・平和のための人類の教育は，神聖な義務である。③世界の人々の教育・科学文化上の関係を通じて，国際平和と人類の共通の福祉という目的を推し進めるために，ユネスコをつくる。

ユネスコスクールは、以下の活動を実施します。
- 質の高い教育を実践し、普及させる
- 人材養成、平和、正義を追求する
- 世界中の青少年の教育ニーズに対応する

ユネスコスクールは、「平和の案内役」であり、効果的な変化をもたらす媒体です。

ユネスコスクール２１世紀の学習の４本柱
- **知ることを学ぶ**：複雑な世界の理解に備え、将来の学習のための基礎を作る。
- **試すことを学ぶ**：グローバル化する経済や社会において機能するためのスキルを身に付ける
- **人間として生きることを学ぶ**：個人がそれぞれの知的・社会的な可能性を生かせる、バランスのとれた情緒と身体を持つ人間を育成する。
- **共に生きることを学ぶ**：個人や社会が平和的に共存できる社会のあらゆるレベルでの人権・民主主義・異文化理解と尊重・平和と人間関係に触れる。

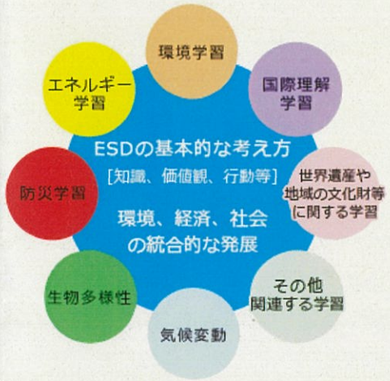
○　羅臼町の各学校では、知床学を中心に海洋教育・防災教育・環境教育など計画的に学習を進めています。
○　４月から学習してきたことを、１２月に行われるユネスコスクール研究発表会で交流しています。

ユネスコスクール研究発表会の様子

ＥＳＤとは？

ユネスコスクールは、ＥＳＤを推進するための拠点と定めています。
ユネスコスクールで取り組んでいるＥＳＤとは何でしょうか。
ＥＳＤ（Education for Sustinable Development）
（持続可能な開発のための教育）

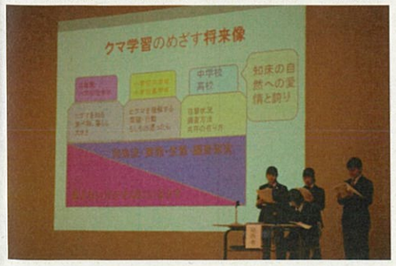
現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。
ＥＳＤとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題としてとらえ、一人ひとりが自分でできることを考え、実践していくこと(think globaly,act locally)を身に付け、課題解決に繋がる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。



つまり、ＥＳＤは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

ＥＳＤの考え方
ＥＳＤの学習や活動で取り上げるテーマ・内容はかならずしも新しいものではありません。むしろ、それらをＥＳＤという新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組を結びつけることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

ＥＳＤで育みたいカ
○　持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重など）
○　体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
○　代替案の思考力（批判力）
○　データーや情報の分析能力
○　コミュニケーション能力
○　リーダーシップの向上



ユネスコスクール
研究発表会の様子

ＳＤＧｓとは？

（エス　ディー　ジーズとは？）　持続可能な開発目標

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）とは、２０１５年９月の国連サミットで採択された、２０１６年から２０３０年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための１７のゴール・１６９のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。ＳＤＧｓは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

２０３０年までに達成すべき１７の目標

目標１
・貧困をなくそう
目標２
・飢餓を０に
目標３
・すべての人に保健と福祉を
目標４
・質の高い教育をみんなに
目標５
・ジェンダー平等を実現しよう
目標６
・安全な水とトイレを世界中に
目標７
・エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
目標８
・働きがいも経済成長も
目標９
・産業と技術革新の基盤を作ろう
目標１０
・人や国の不平等をなくそう
目標１１
・住み続けられるまちづくりを
目標１２
・作る責任使う責任
目標１３
・気候変動に具体的な対策を
目標１４
・海の豊かさを守ろう
目標１５
・陸の豊かさも守ろう
目標１６
・平和と公正をすべての人に
目標１７
・パートナーシップで目標を達成しよう

「この中に目標をより具体的にしたものが１６９あります!)

取組例１
食品ロスを解消する「捨てないパン屋」

取組例２
フリーターや主婦にもうれしい「ワンコイン検診」

羅臼高等学校存続

町では、今まで「羅臼高等学校をなくさない」ということで昨年度、「羅臼高等学校存続問題検討協議会」を立ち上げ2回協議会を開催し話し合いを進めてきました。

協議会設立の前段では、教育大学釧路校の二宮信一教授に、「高校がなくなると羅臼町がなくなる～羅臼町の将来を考える～」と題して講演をいただきました。その中で、へき地では、人口の流出、減少、子どもの進学による流出、超少子高齢化の進行、地場産業の衰退などの課題があります。そのような地域社会の持続可能性について、「問われているのは、大人・行政の本気度と次代を担う子供たちの参画であり、学校教育だけでは、問題は解決に至らない。また、町内だけで解決は進まない、適度な外部との交流が必要であり、当事者の本気度がなければ協力者は現れない。」と提言されました。

これを受け、教育委員会では今後どのように動いていくか協議し進めてきました。

今年度6月に北海道教育委員会では、「公立高等学校配置計画案」（平成31年度～33年度）を出しました。その中で、羅臼高等学校は、33年度までは存続を決定しました。しかしその後の存続については生徒の進路状況を見て検討していくということになっています。

存続についての問題は一応据え置きになりました。今後は、羅臼高等学校をより魅力的な学校にするにはどうするか考えていかなければなりません。

今まで町では、高校存続に向け連携型中高一貫教育、幼小中高一貫教育に取り組み、自然環境科目群や知床学など高校が取り組む特色ある授業について支援してきました。

羅臼高校は、今年度から全学年1学級になり教員が減らされ、今まで行ってきた特色ある授業の展開に支障をきたしております。いかにして、地元からの進学者を多く確保するか、どのようにして町外からの進学者を受け入れる体制づくりをするかなど大きな課題となっています。危機感を持って強い意志で、地元住民と共に、地元の道立高校がより魅力的になるように総力を持って取り組みを進めていかなければなりません。

教育委員会では6月末から、羅臼高校がより魅力的な学校となるために地域の皆さんとともに考えていこうと各町内会に足を運び地域懇談会を開催してきました。

高校の魅力化には、各町内会で実に様々な意見が出されました。

- 学力をつけてほしい。
- 羅臼でしか学べないものを。
- 受験に向けた不安がある。
- 羅臼町の魅力化が必要でないか。
- 資格をもっと取れるように。
- 実用の英語を学ばせてほしい。

など

地域懇談会の様子

知床未来中第1回体育祭

7月21日（土）に知床未来中学校の第1回体育祭が開催されました。

体育祭日和で始まりました。

保護者や親戚の方々などたくさんの人たちが応援にきていました。

生徒達は、一生懸命競技に臨みお互いの頑張りを認め合い応援する姿を見ることができた体育祭でした。

中学生の体育祭は、生徒会の生徒達が、開閉会式の司会進行、競技の招集などを行いました。また、一部競技では生徒達による運営も行われました。生徒達の頑張りで素晴らしい体育祭になりました。

途中からあいにくの雨となりましたが、何とか最後まで終わらせることができました。

開会式の様子

少年の主張根室地区大会

7月19日（木）別海町公民館において「少年の主張根室地区大会」が行われました。管内一市四町から10名の中学生がそれぞれの主張を発表しました。

知床未来中学校からは、3年生今泉ほのあさんと2年生吉田澪七さんの2人が代表として出場しました。

今泉さんは「心に響く言葉」、吉田さんは「伝え広げるために」の内容で主張しました。

2人とも堂々と自分の発表を行うことができました。全道大会への代表とはなりませんでしたが、優良賞をもらうことができました。

釧路地区吹奏楽コンクール

銀賞受賞

7月28日（土）に、釧路市民文化会館大ホールで釧路地区吹奏楽コンクールが行われ知床未来中学校の吹奏楽部が出場しました。日頃の練習の成果を十二分に発揮し自分たちでは今までの演奏の中で一番納得のいく演奏ができたようです。

当日会場では、きびきびと張りのある動きで12人と少ない人数ですが、まとまりのある行動がとれたようです。

閉会式で銀賞の発表があり、生徒達は満足のいく演奏だっただけにちょっと悔しい様子が見えていました。

今後は、今まで以上に練習を積み重ね、町のイベントや演奏会などでより高い完成度の演奏を聴かせてくれることと思います。

楽しみですね。